

2009年 エボニック グループ業績発表

2010年3月31日

2009年は大方の予想を上回る好業績 - 2010年に向けて好発進

- 売上は経済不況のため前年比の18%減少となるが、EBITDA(金利・税金・償却前利益)は前年比やや減(-6%)にとどまる
- クラウス・エンゲル取締役会会長は「信頼に値する業績を上げ、危機的な年を乗り切ることができた」と発表
- 21億ユーロのキャッシュフローを計上(2008年は4億ユーロ)
- 純負債は約34億ユーロと、前年比12億ユーロの大幅減
- 5億ユーロを超えるコスト削減に成功。当初の目標を大きく上回る
- 収益性の高い成長と持続的な価値創出へ向け、新たな企業戦略を策定
- 2012年12月31日まで、経営上の理由による解雇を行わない取り決め
- 2010年は好調なスタートを切る

内藤 吾朗
コミュニケーションズ
T +81-3-5323-7391
F +81-3-5323-7399
goro.naito@evonik.com

エボニック インダストリーズ(ドイツ・エッセン)は3月25日に業績発表をおこない、エボニック インダストリーズ取締役会会長のクラウス・エンゲルは「エボニック グループは、世界的な経済危機とその余波にうまく対応することができた。2010年に幸先の良いスタートが切れたことで、今年1年に対する自信が深まった」と述べています。またエンゲルは「2009年当初は難しい時期だったが、徹底的なコスト削減と効率化の結果、下半期には営業成績で急落した分を取り戻すことができた」とも話しています。流動性と収益を確保するために取られた迅速な対応の効果が表れています。エボニックは純運転資本を大きく減少させ、キャッシュフローを大幅に増加しました。エンゲルは「純負債を4分の1ほどと大幅に減少した。これは過去4年間で最も急速にできた負債の圧縮だ」と指摘しています。さらに、新たな企業戦略を実施した結果、収益性の高い持続的成長を目指し、エボニック グループが前進するための道が切り開かれました。

経済情勢の影響で売上減 - コスト削減に支えられ EBITDA は前年比やや減にとどまる

2009年におけるグループ全体の売上は、前年比18%減の130億7,600万ユーロとなりました。しかし EBITDA(金利・税金・償却前利益)は上半期の34%の減少に対し、最終的に前年比6%減の20億2,500万ユーロに留まりました。この業績は、効果的なコスト削減と夏以降に見られた若干の需要の回復によって支えられています。総体的にみて、2009年のグループ全体の EBITDA マージンは15.5%に増加しましたが、これは前年(13.6%)を大きく上回っています。

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モノリス 12F

www.evonik.jp

グループの2009年の営業外損失は2億9,900万ユーロで、前年(4億600万ユーロ)から明らかに改善しました。継続事業の税引前利益は14%増加し、4億1,200万ユーロを計上しました。一方、廃止事業の税引前利益は2009年には損得なしでした。前年の数値(1億3,400万ユーロ)は、主にタール精製・開始剤事業からの投資引き上げによる収益に押し上げられたものです。2009年の純利益は2億4,000万ユーロとなり、売却による収益に押し上げられた前年値(2億8,100万ユーロ)を下回りました。このように世界的な経済危機にも関わらず、良好な業績を達成しました。

2009年を席卷した危機にも関わらず、エボニックは資本コストを再び上回ることができました。使用総資本利益率(ROCE)は8.4%で、グループの税引前資本コスト8%を上回りました。また化学、エネルギー、不動産の各部門でも、ROCEが資本コストを上回りました。

営業活動のキャッシュフローが大幅に改善され、2008年の3億8,800万ユーロから2009年には20億9,200万ユーロに増加しました。主な要因は純運転資本、すなわち事業に関連した短期運転資金の大幅減でした。営業活動のキャッシュフローにより、純負債が11億5,200万ユーロ(25%強)減少し、34億3,100万ユーロになったほか、投資に資金を供給することができました。

2009年には戦略的に重要なすべての設備投資を行いました。その総額は8億4,900万ユーロに達しています。エボニックグループは、その柔軟な投資計画のおかげで設備投資を前年と比べて約3億ユーロ減少することができました。

目標を大きく上回る5億ユーロ超のコスト削減に成功

コストを削減して効率を改善するため、2009年には抜本的かつ迅速な対応策を講じました。最大の目標は、短期的に収益と流動性を改善することでした。エボニックの社員による取り組みは5億ユーロを超える削減という、当初の短期目標である約3億ユーロを大きく上回る成果をあげました。その結果、下半期に一部の事業の不足分を埋め合わせることができました。さらに2012年からは年間およそ5億ユーロの持続的な節減を行う予定ですが、総額の約4分の1はすでに達成されており、70%についても具体的な対応策が決定されています。

エンゲルは、エボニックグループ全体による昨年の「驚くべき業績」を高く評価しています。すべての従業員の努力のおかげで、エボニックは「昨年上半期には達成不可能と思われた」財務結果を発表することができました。これは、労使協議会と鉱業・化学・エネルギー労働組合(IG BCE)の協力を得ながら、経営陣と従業員が丸となって取り組んだ結果です。ドイツの本社では、労使協議会とIG BCEとの

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

間で、2012年12月31日まで経営上の理由による解雇を差し控えるという取り決めが行われました。

グループ戦略が収益性の高い成長の道を開く

2009年にはグループの戦略的再編が行われ、収益性の高い成長と持続的な価値創出を目指し、改めて方向性を定め直しました。昨年12月に詳細な調査が行った結果、エボニックは今後スペシャリティケミカルに集中していくという決断を下しました。当グループはすでにこの分野では世界的な有数企業のひとつに数えられています。今後の方針として、エネルギー部門はグループの傘下に存続しながら、1社ないし数社のパートナー企業と連携してエネルギー分野での成長をめざし、可能性を追求していきます。またエボニックの不動産部門とTHS社の不動産事業が一体化され、およそ13万軒の住宅ユニットを有する強大な住宅用不動産会社が創出される予定です。化学部門は、魅力的な成長と収益可能性を秘めた利益率の高い事業に組織的に集中していきます。何よりもまず、世界的なメガトレンドであるエネルギーの効率化、健康と栄養、テクノロジーのグローバル化の分野で功績を上げていきたいと考えています。

2009年の各部門の業績

化学部門

2009年における化学部門の業績は大幅に変動しました。当初は上向きの兆候が見られましたが、特に自動車、建設、プラスチック産業向けの事業は経済危機の影響を強く受けました。一方、消費財、医薬品、動物飼料セクター向けの製品の需要は良好となりました。化学部門の売上は15%縮小して99億7,800万ユーロとなりました(2008年は117億6,200万ユーロ)。流動性や収益、またコスト削減といった抜本的な対応策のおかげで、昨年半ばに計上されたEBITDAの前年比33%減は、年末までにほぼ完全に解消されました。化学部門の2009年のEBITDAは16億200万ユーロとなり、前年比1%減にとどまりました。またROCEは10.3%に増加しました(2008年は9.9%)。

海外での新たな成長の兆し: 2009年に中国の上海でポリマー、ポリマー半製品、塗装系の新しい生産複合体の操業が開始されました。2億5,000万ユーロの費用をかけて建設されたこの施設は、これまで化学部門が手がけたなかで2番目に大規模な投資プロジェクトです。製品は、最新のフラットスクリーン・ディスプレイ向けのLEDなどに使用されます。

**エボニック デグサ ジャパン
株式会社**
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

エネルギー部門

エネルギー部門の2009年の売上は、前年の33億9,900万ユーロから25%下落し、25億5,800万ユーロとなりました。主な要因として、2008年に1トン当たり220ドルのピークを記録した無煙炭価格の大幅な下落が挙げられます。2009年の価格帯は62ドルから81ドルでした。また、2009年の経済危機により、石炭取引と電力の需要も減少しました。それに関わらず、エボニックはコスト削減によりEBITDAの下落を縮小することに成功しました。その結果、EBITDAは2008年の5億1,700万ユーロと比べて2009年は19%の減少のみで、4億1,800万ユーロとなりました。収益に影響を与えた主な下落要因は、2009年上半期の大幅な価格下落に起因する石炭在庫の単発的な減損でした。ROCEは前年の13.2%から9.7%に下降しました。

ドイツのデュイスブルク・ヴァルサムに建設された革新的な790メガワットの無煙炭燃焼火力発電所は、まもなく操業を開始します。この発電所(「ヴァルサム10」)には総額8億2,000万ユーロが投資されています。ヨーロッパ最先端となる無煙炭燃焼発電所は、2009年夏に耐圧試験に合格しており、2010年に稼働を開始します。ヴァルサム10の効率は45%を超えます。最大負荷時には、同じ定格出力をもつ他の無煙炭燃焼火力発電所よりも原料が20%少なく済むため、二酸化炭素の排出量が20%削減されることとなります。

不動産部門

不動産部門は2009年に安定した業績を上げました。売上は前年の3億7,500万ユーロから3億7,800万ユーロに増加しました。EBITDAは前年の2億1,700万ユーロから16%下落し、1億8,300万ユーロになりました。ただし、2008年の値は営業用不動産の売却による特別収入によって押し上げられています。この収入に対する調節を行うと、下落率は1ケタ前半となります。ROCEは7.3%でした(2008年は9.2%)。

不動産部門はおよそ6万軒の住宅ユニットを所有、管理しています。また同部門は、7万軒以上の住宅ユニットを所有しているTHS社の株式の50%を取得しています。2009年の需要ベースの空き室率は2.4%であり、このビジネスセクターの基準によると貸借状況は非常に良好といえます。

研究開発が革新を強力に後押し

経済危機に関わらず、エボニックグループは2009年に3億ユーロの研究開発費を支出しました(2008年は3億1,100万ユーロ)。このような高額の投資が継続

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

的に行われているのを見ると、エボニックが将来における収益性の高い成長基盤として研究開発部門を特に重視していることが分かります。

研究開発における成功例に、大規模リチウムイオン電池用のセルの連続生産を可能にする専有技術の開発があります。近年、エボニックはこの分野に約1億ユーロの資本を投下しています。高性能 SEPARION®セパレーターを利用した蓄電技術は、多数の特許により保護されており、2009年に CERIO®の商標名にまとめられました。エボニックはヨーロッパにおける、大規模リチウムイオン電池用セルと部品の製造企業のトップになることを目標に掲げています。

2009年第4四半期の業績

前月までに記録された需要の改善は、2009年第4四半期も持続しました。グループの売上は2009年第3四半期から5%増加し、34億8,600万ユーロになりました。一方、売上は前年同期比8%減となりました。この減少は主に、石炭価格の下落により売上が29%減の7億900万ユーロになったエネルギー部門に起因しています。売価は下落しましたが、需要の大幅な拡大に支えられて、第4四半期の化学部門の売上は1%増加し、26億6,200万ユーロになりました。不動産部門は5%減の9,900万ユーロの売上を計上しました。

エボニックグループの2009年第4四半期のEBITDAは5億5,700万ユーロとなり、前年同期の3億5,100万ユーロから59%上昇しました。これは、化学部門の需要拡大に加え、グループ全体のコスト削減に起因しています。化学部門のEBITDAは、主に利益幅とコスト削減の改善の結果として、88%増の4億3,500万ユーロになりました。エネルギー部門のEBITDAは62%増加して1億5,300万ユーロになり、不動産部門のEBITDAは前年同期から減少して5,000万ユーロを計上しました(2008年第4四半期は5,600万ユーロ)。エボニックグループ全体のEBITDAマージンは、2009年第4四半期に16.0%に増加しました(2008年第4四半期は9.2%)。

2008年第4四半期に計上した3億1,100万ユーロの赤字に対し、2009年第4四半期の純利益は2,900万ユーロになりました。

良好な業績と流動性を守る対策が成功したおかげで、2009年第4四半期の営業活動のキャッシュフローは8億3,300万ユーロとなりました(2008年第4四半期はわずか5,500万ユーロ)。

**エボニック デグサ ジャパン
株式会社**
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

2010年の展望

エボニックは自信をもって2010年に臨んでいます。グループは幸先の良いスタートを切ることができました。1月と2月の販売高と売上は2008年を下回っているものの、売上と収益を示すあらゆる指標は、昨年の数値を十分に上回っています。2010年の経済的な展望は依然として不確実性に彩られており、たくさんの疑問符が残されています。しかし、販売高の好転を見ると、2010年の売上は2009年を上回る見込みです。エボニックの目標は、少なくとも昨年と同レベルのEBITDAを保持することです。予想される事業の改善を視野に入れながら、2009年と比べて設備投資を大幅に強化する予定です。

エボニックグループの損益計算書の抜粋

(単位 100 万ユーロ)	2009 年 第 4 四半期	2008 年 第 4 四半期	変動 (%)	2009 年	2008 年	変動 (%)
売上	3,486	3,802	-8	13,076	15,873	-18
金利・税金・償却前利益 (EBITDA)	557	351	59	2,025	2,165	-6
金利税引前利益(EBIT)	321	98	228	1,194	1,298	-8
営業外損益(継続事業)	-161	-328		-299	-406	
=営業利益	160	-230	-	895	892	0
金融収支	-121	-133		-483	-530	
=所得税前収益(継続事業)	39	-363	-	412	362	14
所得税前収益(非継続事業)	5	-36		0	134	
=所得税前収益(合計)	44	-399	-	412	496	-17
所得税	7	91		-100	-145	
=税引後所得	51	-308	-	312	351	-11
少数株主持分	22	3		-72	-70	
=純利益	29	-311	-	240	281	-15

エボニック デグサ ジャパン
株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

事業分野別の業績

	売上			EBITDA		
	2009年 第4四半期 (100万ユーロ)	2008年 第4四半期 (100万ユーロ)	変動(%)	2009年 第4四半期 (100万ユーロ)	2008年 第4四半期 (100万ユーロ)	変動(%)
化学	2,662	2,626	1	435	232	88
エネルギー	709	997	-29	153	94	62
不動産	99	104	-5	50	56	-11
その他	16	75	-79	-81	-31	-161
合計	3,486	3,802	-8	557	351	59

	売上			EBITDA		
	2009年 (100万ユーロ)	2008年 (100万ユーロ)	変動(%)	2009年 (100万ユーロ)	2008年 (100万ユーロ)	変動(%)
化学	9,978	11,762	-15	1,602	1,626	-1
エネルギー	2,558	3,399	-25	418	517	-19
不動産	378	375	1	183	217	-16
その他	162	337	-52	-178	-195	9
合計	13,076	15,873	-18	2,025	2,165	-6

エボニックグループの事業別の社員数

	2009年12月31日	2008年12月31日
化学	29,723	31,728
エネルギー	4,820	4,702
不動産	479	443
その他	3,659	3,894
エボニックグループ全体	38,681	40,767

エボニック インダストリーズについて

エボニック インダストリーズはドイツのクリエイティブな産業グループです。私たちのコアビジネスであるスペシャルティケミカルでは世界的リーダーとなっています。またエボニックは無煙炭や再生可能エネルギーによる発電事業のエキスパートであり、ドイツでは最も大きな個人向け民間不動産会社のひとつです。私たちの業績は創造性・専門性・自己革新力・信頼性によって作り上げられています。

エボニック インダストリーズは世界100ヶ国以上で活動しており、2009年度は39,000人の社員を有し、総売上高は131億ユーロ、EBITDA(金利・税金・償却前利益)は20億ユーロを計上しました。

**エボニック デグサ ジャパン
株式会社**
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

免責事項

このプレスリリースに記載されている見通しや期待、または将来の予測に関する記述は、既知または未知のリスクと不確実性を含む可能性があります。実際の結果や発展は事業環境の変化により異なる場合があります。エボニック インダストリーズ AGはこのリリースに含まれる見通し、期待、記述に関して、更新の義務を負いません。

(このプレスリリースは2010年3月25日にドイツで発表されたものの翻訳版です)

**エボニック デグサ ジャパン
株式会社**
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp